

27年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 11月1日～ 27年11月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
入荷動向	スギ	20.0	10.0	0.0
	ヒノキ	△ 6.3	△ 6.3	△ 18.8
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	0.0	5.0	0.0
	ヒノキ	14.3	0.0	0.0
	カラマツ	100.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	0.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	5.6	22.2	11.1
	ヒノキ	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ原木の入荷は11月、12月の増加が、28年1月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツは11月の横ばいが、12月、28年1月は増加。トドマツは11月の増加が、12月は横ばい、28年1月は増加。

・スギ原木の消費は、12月に微増するものの3ヵ月連続してほぼ横ばい。ヒノキは11月の増加から12月、28年1月は横ばいに。カラマツは3ヵ月連続の増加。トドマツは11月の増加、12月の横ばいから28年1月は減少に転じる。

・スギの在庫は3ヵ月連続して増加。ヒノキ及びトドマツは11月の横ばいが、12月、28年1月は減少。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/11月	12月	28/1月
スギ	10.0	0.0	△ 10.0
ヒノキ	△ 14.3	0.0	△ 21.4
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の価格は、11月の強保合、12月の横ばいが、12月は弱保合。ヒノキは弱保合ないし弱含み。カラマツ及びトドマツは横ばい。

モニターからのコメント

' (原木荷動き)

・冬山に変わる時期、林道凍るまで入れないかも、工場順調に稼働、4,000m³/月消費、冬季に入るため挽立て落ちる。生産量増により、入材<生産で在庫はやや減少(北海道)。

・カラマツは低気圧による風倒木処理が先行し、皆伐は遅れている。トドマツはシステム材が順調に入荷。カラマツの消費は産業向けで回復しているが、業界全体では増えてない。トドマツは建築向けの新規先が始まり増加傾向(北海道)。

・スギは原木市場へ出荷増のため入荷やや増加、ヒノキは販売不振で生産減(関東)。

・集まりも少し良く出材量も増えている。製材総量は変えず、ヒノキ原木が多いため今月は通常月よりもヒノキ製材を増加。在庫は3月頃まで積み増しをするためやや増加(関西)。

・ヒノキ入荷、消費は今月から横ばい、来月からやや減少と予想。在庫は今月増やしたい、来月はやや減少させる(中国)。

・多少、入荷動向は改善してきた。消費は変化なし。原木在庫はもう少し量的に充実させたい(中国)。

・各原木市場の記念市などで集材は多量だが、翌月以降の入荷は天候次第か。消費はバイオマス、チップ事業次第(九州)。

・スギ、ヒノキ共に在庫増加につき、価格は下げに向かう。注文に対応するため残業開始。在庫は10月少々減少(九州)。

・相場の動向によるが、現状では入荷に大きな増減はなく推移すると思われる。消費は製品の需要次第で変動(九州)。

(原木価格)

- ・変わる見込みなし（北海道）。
- ・ヒノキは販売不振で価格も下落（関東）。
- ・年初の雪の影響で材が減ると、少し上昇すると思われる（関西）。
- ・天候にもよるがヒノキは今月下がる。来月中ごろから上がる。1月は12月の横ばいもしくは上昇と予想（中国）。
- ・原木高の製品安（中国）。
- ・バイオマス、輸出事業に後押しされる形で、今後ある程度の価格をキープするのでは（九州）。
- ・年内は横ばい、年明けは少し下げると思う（九州）。
- ・製品需要次第で変動（九州）。

27年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
生産動向	スギ	35.0	15.0	△ 10.0
	ヒノキ	14.3	0.0	△ 7.1
	カラマツ	100.0	50.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	△ 25.0
出荷動向	スギ	20.0	5.0	△ 20.0
	ヒノキ	21.4	0.0	△ 21.4
	カラマツ	100.0	50.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 20.0	△ 15.0	0.0
	ヒノキ	△ 35.7	△ 28.6	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	25.0	0.0

・スギ製材品の生産は11月、12月の増加が、28年1月は減少。ヒノキ及びトドマツは11月の増加が、12月は横ばい、28年1月は減少。カラマツは11月、12月の増加が、28年1月は横ばい。

・スギ及びヒノキの出荷は11月の増加が、12月微増ないしは横ばいから、28年1月は減少。カラマツは11月、12月の増加が28年1月は横ばい。トドマツは11月の増加が、12月、28年1月は横ばい。

・スギ及びヒノキの在庫は11月、12月の減少が、28年1月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは11月、12月の増加が、28年1月は横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	10.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	5.0	△ 5.0	△ 5.0
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	5.0	10.0	0.0
	タルキ	6.3	0.0	0.0
	間柱	15.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	△ 6.3
	ラミナ	10.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	17.9	△ 7.1
柱角 KD12×3		7.1	△ 7.1	△ 7.1
土台角 10.5×4		8.3	△ 8.3	△ 8.3
土台角 12×4		8.3	△ 8.3	△ 8.3
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格は、柱角KD12×3mが12月、28年1月にやや弱保合であるが、その外は総じてやや強保合で推移。

・ヒノキ製材品の出荷価格は、柱角及び土台角が11月にやや強含みだが、12月、28年1月はやや弱含みに転じる。通し柱及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・冬季に向けて生産落ちる。稼働日数も冬季は減少。秋需なし。在庫は半月分と少し増加（北海道）。
- ・平均、2時間の残業で生産。10月から産業資材用途で回復し、11月からは出荷量が増加（北海道）。
- ・スギ原木は安定出荷の見通しが出来そう、販売好調で在庫減（関東）。
- ・受注残あり。注文は多いが、周辺の製材所の荷動きは悪いと聞く。在庫少なく回転は良い。昨年同月並みの荷動き。出荷が順調なため在庫は比較的溜まらず（関西）。
- ・ヒノキ生産は今月横ばい、来月から減らす。今月の出荷は先月並、12月、1月は減少。在庫は一定量を確保する（中国）。
- ・生産は変化なし。ヒノキ出荷は納材遅れが生じている。在庫処分を行った（中国）。
- ・生産、出荷は先行きは見えないが、WW等外材の輸入状況により多少の変化があるのでは（九州）。
- ・残業開始。年内は順調に売れると思う。在庫はやや減少（九州）。
- ・今月中までスギ製品は動く見込み（九州）。
- ・スギは受注が落ち着いているため、生産は11月、12月はゆっくりになる見込み（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギ、丸太価格次第だが、下げる要素なし（北海道）。
- ・冬季はスギ12cm角が不振、ヒノキは全般に不振（関東）。
- ・スギフィンガージョイント間柱の値上げにより、ラミナ仕入価格は上げ、値上げ雰囲気は一服感あり（上げきれなかった）。ヒノキは強気配であるが、スギ同様上げ切れていない（関西）。
- ・スギは良くも悪くも価格は安定している（原木単価上昇にもかかわらず）。ヒノキはスギ同様原木単価上昇にもかかわらず、製品価格は安定している（中国）。
- ・ヒノキは11月やや上昇、12月以後は横ばいもしくはやや下げ気味（九州）。
- ・スギ柱角10.5cmは今月までは前月と同程度出る見込み。12.0cm角は使用地方で雪が降り減る見込み。スギ間柱は加工限界量に4ヶ月前から達している。ヌキは結束に限界（九州）。

27年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	100.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは11月の横ばいが、12月、28年1月は減少。ニュージーランド丸太は3ヵ月連続して増加。

・米マツ丸太の消費は3ヵ月連続して減少。ニュージーランド丸太は3ヵ月連続して増加。

・米マツ丸太の在庫は11月の増加が、12月、28年1月は横ばい。ニュージーランド丸太は11月の増加が、12月は横ばいとなり、28年1月は減少。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/11月	12月	28/1月
米マツ丸太	0.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は11月の横ばいが、12月は強含み、28年1月は横ばい。

・ニュージーランド丸太は11月、12月の横ばいが、28年1月は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータ丸太は、受注量多少増加、年末に向けて更に増加すると期待（中国）。

(原木価格動向)

- ・ニュージーランド丸太は、中国向け原木価格上昇に伴って日本向けも上昇（中国）。

27年11月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	100.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	100.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	△ 50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 100.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は3ヵ月連続して減少。ニュージーランド製材品は3ヵ月連続して増加。

・米マツ製材品の出荷は11月の減少が、12月は横ばい、28年1月は再び減少。ニュージーランド製材品は3ヵ月連続して増加。

・米マツ製材品の在庫は11月の横ばいが、12月は減少、28年1月は増加。ニュージーランド製材品は11月の横ばい

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/11月	12月	28/1月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		△ 50.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		△ 50.0	0.0	25.0
NZ土木用材		0.0	0.0	25.0
その他		—	—	—

・米マツ平角、正角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

・NZ梱包材(割板)の出荷価格は11月の弱保合が、12月、28年1月は横ばい。NZ梱包材(割角)は11月の弱保合が、12月は横ばい、28年1月強含み。

・NZ土木用材は11月、12月の横ばいが、28年1月は強含みに。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品の荷動きは、パレット材を中心に増加(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は多少弱含みであったが、持ち直すと思う(中国)。